

時間割コード	G2B60140	開講年度	2026				
授業題目	都市環境論基礎					担当教員	高瀬 達夫
英文授業名	Introduction to Urban Environment						河村 隆・竹内 健司・村松 寛之・近広 雄希
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	水曜・4時限	対象学生	全
講義室	共通教育 6 2 講義室			授業形態	講義	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					【授業の達成目標】	
	大学D P						
	学士の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力					都市における環境問題を工学的視点から理解できるようになる	
(2)授業で学べる「テーマ」	環境共生、防災減災						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	「都市環境概論」では、都市における環境問題を工学的視点から多角的に扱う。道路・交通や都市計画が環境に及ぼす影響を理解するとともに、地盤、斜面災害、橋梁などの都市基盤構造と環境負荷、防災・減災技術との関係を学ぶ。さらに、低炭素化、大気・水環境、化学物質管理、循環型社会の構築を体系的に整理し、後半では炭素材料の基礎から環境・エネルギー分野への応用までを通して、持続可能な都市環境を実現するための工学技術について考察する。						
(5)授業のキーワード	交通、地盤、道路、橋梁、防災と減災、低炭素化、循環型社会、炭素材料、エネルギーデバイス						
(6)授業計画	第1回：イントロダクション，都市と道路・交通（高瀬） 第2回：道路・交通と環境（高瀬） 第3回：都市計画と環境（高瀬） 第4回：足下に広がる生活の土台：地盤のおはなし（河村） 第5回：土砂災害の脅威から生活を守る：斜面災害と対策技術（河村） 第6回：人・モノの移動を支える：道路と舗装（河村） 第7回：橋梁の歴史と構造（近広） 第8回：橋梁の景観と設計（近広） 第9回：橋梁の防災と減災（近広） 第10回：低炭素化と大気環境（竹内） 第11回：循環型社会構築（竹内） 第12回：化学物質・水・生活環境（竹内） 第13回：炭素材料と基礎と先端ナノ工学（村松） 第14回：炭素材料と環境応用技術（村松） 第15回：炭素材料とエネルギーデバイス工学，授業アンケート（村松）						
(7)成績評価の方法	当教員（3回分）ごとにレポートを課して評価する：各担当教員ごとに20点、合計100点						
(8)成績評価の基準	各担当教員による評価をあわせた総合評価点で， 90点以上：「卓越している」（秀） 80点～89点：「かなり上にある」（優） 70点～79点：「やや上にある」（良） 60点～69点：「水準にある」（可） 50点～59点：「水準よりやや下にある」（不可（D）） 49点以下：「水準にない」（不可（F））とする．						
(9)事前事後学習の内容	講義で聞いて興味を持った事柄について，講義後に自主的に調べることが望ましい． ＊60 時間以上の時間外学習が必要となります。						
(10)履修上の注意	特になし。						
(11)質問、相談への対応	各担当教員が受け付ける。方法については担当教員ごとに講義時に示す。						
(12)授業への出席	全ての回に出席することを前提とします。 授業の出欠は、出席確認システムのみで行います。なお、不正な出席登録があった場合は、単位を認定しません。						
(13)授業に出席できない場合の学修の補充	授業に出席できない場合は、その分の学修を授業外の時間に自身で行う必要があります。						
【教科書】	指定しない。						
【参考書】	なし。						